

5-10 東アジア若手研究者交流プログラム (EXODASS プログラム)

5-10-1 全体趣旨

本事業は、2008年より5年間、JSPS並びにJASSOによって実施された、東アジアサミット参加国より青少年を日本に招へいする交流計画 (JENESYS プログラム) の後継プログラムとして、分子研独自事業として、2011年度より開始されたプログラムであり、今年度は第2期に相当する。次世代を担う若手研究者の計画的な交流により、アジアを中心とした国々との研究者間のネットワークの形成・強化、当該地域における高度人材育成及び科学技術コミュニティの形成等が期待される。対象国はASEAN加盟国 (インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス)、オーストラリア、ニュージーランド、インドのこれまでのJENESYS対象国に加え、アジアコアプログラム等を通じて分子研と既に多くの交流実績のある中国、韓国、台湾を、本プログラムより加えることとした。この変更により、これまでJENESYSプログラムで問題となっていた国籍問題 (例えばシンガポールの大学に所属していても国籍が中国の場合参加できない、など) が解決され、より多くのアジアの若手研究者に門戸が開かれた。同種のプログラムはすでに通算7期目となり、分子研に定着した感があるとともに、東南アジア諸国にとっても、若手研究者における重要なキャリアパスのひとつとして認識されている。

5-10-2 分子研主催プロジェクト課題について

プロジェクト課題名は、「『環境・エネルギー』基礎研究基盤の確立」である。

現代自然科学が解決すべき問題のひとつである環境・エネルギー問題において、東アジア諸国における自国での研究開発を可能にするための基礎研究基盤の確立は極めて重要である。本交流事業においては、環境・エネルギー問題に関わる基礎科学に関して、主として学位取得前後の若手研究者を広く招へいし、また本交流事業後のフォローアップとしての共同研究体制を確立し、自国における基礎研究の継続を力強くサポートすることで、基礎科学の定着を推進することを目的とする。

分子科学研究所は、国際交流の重要性に鑑み、かねてより様々なチャンネルを通じて国際共同研究、研究支援、教育事業を推進してきた。本交流事業は、教育事業に特化した「アジア冬の学校」を研究者養成事業へと発展し、最終的には、既に基盤研究機関が充実している極東アジア諸国間で形成している研究教育拠点ネットワークを東アジア諸国へ伸展させる、橋渡しの事業となることが期待される。

5-10-3 実施状況

第2期では、原則として分子研の全ての研究グループを受入対象研究室として指定し、公募を原則とした募集を行った。各候補者に対し、research proposal および帰国後の future plan の提出を求め、その妥当性や将来性等に関して審査することにより決定した。

実際の募集は、

- (1) 指定交流相手機関からの推薦 (学内公募を原則)
- (2) ホームページを利用した公募

の順で行った。指定交流相手機関は以下のとおりである：チュラロンコーン大学、カセサート大学 (タイ)、マラヤ大学 (マレーシア)、南洋工科大学、シンガポール国立大学 (シンガポール)。また前回に引き続き、継続的な基礎研究、共同研究を奨励する目的で、過去の参加者の中から希望者に対し、再度 research proposal および帰国後の future plan の提出を求めて審査を行い、招へい費用の一部を援助し、再来訪による共同研究の継続を支援する「revisit program」

も同時に募集した。

今回は8カ国、29名の応募が集まり、またその提案内容も充実していたため、指定交流相手機関とホームページ応募の全ての候補者を同列に扱い、審査を行った。その結果、7カ国9名を最終的に採択した。内訳はタイ2名、マレーシア、ベトナム、インドネシア、シンガポール各1名のこれまでの参加国に加え、新規参加国から、台湾2名、韓国1名の参加を得た。またキャリアの内訳は、博士研究員2名、博士課程学生7名と、大学院生中心の構成となった。

招へいは、2012年10月～2013年1月にかけて実施され、各研究者に応じて、30～90日の期間での研究プログラムが組まれた。また11月30日に、全員の招へい者を一同に会し、全体会議とミニシンポジウムを開催した。本プログラムの大きな目的のひとつとして、将来にわたるアジア分子科学ネットワークの形成があり、各国の同世代の若手研究者の横のつながりを形成する上でこの全体会議の役割は非常に大きい。

このように、本プログラムによってまかれた種は東南アジア諸国で確実に根付いており、アジア地域における分子研のプレゼンスと分子科学ネットワークは確実に強化されている。安倍政権時に提案された本JENESYSプログラムの今後の展開があるかどうかについては不透明であるが、本独自事業のEXODASSプログラムをはじめ、様々なチャネルを利用して、今後の継続が望まれるところである。